

## むつ市地域おこし協力隊活動状況報告書

むつ市長 山本 知也 殿

隊員氏名 山田 菜生子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2024年2月分】

### 1. 実施した活動の概要・状況

2月は大崎隊員担当のスノーライトフェスから始まり、自身担当の畑マタギ展、村上隊員担当のワインイベントを開催し、イベント盛りだくさんの一月となった。また、むつ小川原地域・産業振興財団助成の「下北半島SUP・カヤックツアーPV 作成事業」にて作成していたマリンアクティビティのプロモーションビデオも完成し、発信を開始した。今年も5月の中旬から受付を開始予定のため、ぜひ多くの方にご覧いただけたらと思う。



プロモーションビデオのサムネイル



プロモーションビデオのQRコード

### 〈主な活動〉

○2月3日（土）「スノー×ライトフェス 2024 in 川内」

今年は2月の積雪量が少なく、多くの地域で雪をテーマにしたイベントが中止になる中、イベント内容を大幅に変更し、イベントを無事開催することができた。雪の無い中で、大崎隊員を中心に”雪以外の冬の魅力”を探り、イベント日程が節分と重なっていたことから、恵方巻に見立てた棒パン作りや豆まきに見立てたボール投げ大会等を実施し、約800名の方にお越しいただいた。昨年と比較すると来場者数は減少してしまっただが、雪の無い状態でのイベント例を作ることが出来たため、今後のイベントに活かしてもらえたらと思う。



ライトアップの様子



豆まき大会の様子

○2月10日（土）～ 海と森ふれあい体験館冬の企画展「畑マタギ展～熊を撃ち、山をつなぐ～」

県教委から委託を受けて当法人で実施した令和4年度「川内町の先輩にインタビュー！」事業の中で地域の高校生が川内町畑集落のマタギ2名にインタビューを行った。そこで畑部落最後のマタギ大澤氏は「自分が最後（の畑マタギ）だから伝えたい」とお話されており、跡継ぎもいないことから畑マタギの歴史を残し伝えていくことが急がれる。昨年末に実施した事業発表会に対するアンケートにおいても地域内外の参加者から「マタギについて知らないことが多かった」「もっと掘り下げてほしい」などの意見が多数寄せられた。さらにマタギの生物との向き合い方は、昨今話題の鳥獣害問題により「人と自然の共生」の在り方を迫られている現代の日本に暮らす多くの人にとって大きなヒントになり得ると考えた。

企画展を通して、畑マタギの文化や生き方、命との向き合い方について”よそ者視点”から記録し、その存在を地域に再確認してもらおうと同時に地域外へと発信をする。また、自然と向き合い続けるマタギの姿や、熊の体の隅々まで余すことなく活用するというその哲学を伝えることで、自然の中での“ヒト”としての在り方や、持続可能な暮らしについて自分事として考えるきっかけとしたいにできればと企画した。

初日から沢山の方にご来館頂き、地域の方からも「初めて畑マタギのことを知った」という声があった。企画展は来月16日（土）まで開催中。



企画展の様子



展示中の資料 シオクリに使う熊バタ

○2月24日（土）「下北ワインとジャズの夕べ」

村上隊員の担当事業である当イベントでは、サンマモルワイナリー協力の下、地域の方々に向けて、下北ワインや下北牛のローストビーフなど下北のおいしさを味わいながら県内のジャズバンド「Fbで行こう！」によるジャズの演奏に酔いしれる空間をお楽しみいただいた。指定管理施設「海と森ふれあい体験館」では協力隊着任前から行われている人気イベントであり、アンケートにも定期的な開催を望む声が多く寄せられた。



イベント会場の様子



ドリンク提供ブース

## 2. 翌月の活動予定

3月は以下の活動と並行して、退任に向けて引継ぎ作業を進めていく。

- 3月16日（土） 畑マタギ展 特別座談会（企画展終了）
- 3月21日（木） 大湊高校キャリアデザイン講演
- 3月22日（金） むつ市地域おこし協力隊活動成果報告会
- 3月31日（日） むつ市地域おこし協力隊 退任